

青森市子ども会議フォーラム2021

FOR CHILDREN～よかったら、ぼくたちの声も聞いてみませんか？～

- 1 日 時 令和3年11月20日（土） 8時30分～12時30分
- 2 場 所 青森市議会議場、委員会室
- 3 出席者 子ども会議委員10名、子どもサポーター3名、事務局12名
- 4 次 第 (1) 開会
(2) 市長あいさつ
(3) 私たちからの意見提案
(4) 市長総括
(5) 閉会

5 開催概要

市では「青森市子どもの権利条例」において、毎年11月20日を「青森市子どもの権利の日」とし、この日にふさわしい活動を行うこととしています。青森市子ども会議では、2年ぶりに、子どもが意見を表明し市政に参加する機会である「青森市子ども会議フォーラム」を、市議会議場をお借りして開催しました。

リハーサル

午前8時30分、みんなでデザインしたお揃いのTシャツを着用し、控え室である委員会室に集まりました。急な変更にもみんなで臨機応変に対応し、無事最終確認を終えてリハーサルを行うことが出来ました。議場でのリハーサルを終えた後は、通し練習よりも各自で原稿を読む練習をしたいとの意見があったので、委員会室に戻ってそれぞれ最後の練習をして、本番に備えました。

そして10時45分、青森市子ども会議フォーラム2021がスタートしました。



開会

司会を務める高校生委員から、開会のあいさつと子ども会議の説明がありました。



市長あいさつ

あいさつでは、令和元年度の子ども会議フォーラムで子ども会議委員から出された提案や意見に対する成果についてパネルを使用した説明がありました。

運動グループからいただいた「小さな子どもが冬に遊べる場所が欲しい」という意見から、建設予定のアリーナの中に青森県で一番広い面積で子どもが元気に楽しく遊べるプレイルームを設置する予定です。

また、まちづくりグループからいただいた「新町の魅力的に思ったものや面白いものをたくさん広める活動をしていきたい」という提案でしたが、ひとつは今年の7月にワ・ラッセの隣にあおもり駅前ビーチ（通称 A-BEACH）が完成しました。このA-BEACHは、青森駅前でも水遊びやシーカヤックができるほか、アマモという水生生物や小さなお魚も住んでいるので、自然を学ぶことができます。

また、冬には「あおもり冬のワンダーランド」を開催し、雪灯りや雪だるま〜という灯籠が冬の青森を盛り上げる企画があります。今年の見玉は A-BEACH に世界遺産が登場することです。三内丸山遺跡の六本柱や小牧野遺跡の環状列石などのオブジェが登場しますので、ぜひ宣伝してほしいと思います。



私たちからの意見提案

① 「Instagram を活用した情報発信について」 グループ

〈活動をはじめたきっかけ〉

Instagram を活用しようと思った理由は、新しい生活様式も始まり、おうち時間が増えた今、「多くの人に親しまれている SNS で活動したい」という委員の声があったからです。

また、前回のフォーラムでは「活動を通して新町の魅力的なものや面白い話をたくさん広める活動をしたい」と私たちの意気込みを発表しました。

これらのことを踏まえ、広くいろんな人に発信できるツールとして、SNSの中でも写真・動画・文字すべてを使って投稿でき、中高生をはじめ、大人にも広く親しまれている Instagram を活用して、いろいろな情報を発信することにしました。



〈これまでの活動内容〉

○記念すべき初投稿「第1回青森市子ども会議」

今年度の活動や抱負を市長へ発表し、そこで小野寺市長からいただいた言葉をきっかけに、「青森市の魅力をどのように発信していくのか」、「どんな内容であれば青森市をもっと盛り上げられるか」を考え、

- 1 観光客向けスポットである「浅虫水族館」、「三内丸山遺跡」、「ねぶたの家 ワ・ラッセ」
- 2 コロナで影響を受けた飲食店や青森のグルメ
- 3 まだまだ知られていない「三内縄文ベリーランド」や「子どもの権利」

についての情報を発信していくことにしました。

それぞれの観光施設へ行くためにはどこのバス停や駅に向かえばいいのか、青森駅から出発する場合にはどのバス停から乗ればいいのか、何時発のバスがあるのかなどを協力して調べましたが、アクセス方法を調べるのはとても難しかったです。

○2・3回目の投稿「ふんばるアオモリ テイクアウトマーケット」

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた飲食業者の皆さんを応援するためのイベントとして、市役所のエントランスを会場に、市内の様々な飲食店のお弁当などを購入できました。

このイベントの主催者である青森商工会議所青年部の方からは開催への熱い思いを、実際に出店した「焼肉きんぎょ」の店長さんからは売上の変化などのコロナの影響について伺いました。

また、このテイクアウトマーケットでは、開始30分もすると連日売り切れが続いていたので、開催する場所や開催回数、期間を拡大すれば市内飲食店のさらなる応援に繋がるように思いました。

○4つの観光スポットの撮影

4回目の投稿「浅虫水族館」、6回目の投稿「三内縄文ベリーランド」、16回目の

投稿「三内丸山遺跡」、そして初のショート動画の投稿となった「ねぶたの家 ワ・ラッセ」について青森市子ども会議の Instagram で紹介しました。

以上の活動を踏まえ、4つの質問・提案があります。

- ① 市では、新型コロナ流行により影響を受けた事業者には、どのような支援をしているのか教えてください。
- ② 市内飲食店を盛り上げるため、青森市役所本庁舎サードプレイスを活用したテイクアウトマーケットを実施していますが、このようにテイクアウトマーケットを開催できる場所や開催期間を拡大してはどうでしょうか。
- ③ テイクアウトマーケットでは、食事だけではなく、食後のスイーツやドリンクなども一緒に販売することで、もっと多くの事業者の売り上げ向上につながると思っているので、対象となる事業者を増やしてはどうでしょうか。
- ④ 実際に観光施設にバスを利用していくために行き方などを調べていましたが、どの路線のどこのバス停で乗ればよいか、調べるのが難しかったです。初めて青森市に来る観光客でも観光施設へのアクセスを容易にするために、市ではどのような取組をしていますか。

市からの回答

(小野寺市長)

②の質問についてお答えします。テイクアウトマーケットは、これまでに夏に2回開催していただきました。1つ目の A-BEACH の開催を記念して7月22日から7月24日までねぶたの家 ワ・ラッセを会場に開催した「ふんばるアオモリ「海 BIRTH」テイクアウトマーケット」では、お弁当やハンバーガーなどが好評だったようです。2つ目は、7月26日から8月27日までの土日・祝日を除き市役所本庁舎1階サードプレイスを会場に開催されたテイクアウトマーケットでは、昼はお得なランチ、金曜の夜は青森商工会議所スタートアップセンターでディナーが提供され、いずれも市民の皆さんに好評でした。

皆さんと同じように、多くの市民の皆さんや出店した飲食店の皆さんから「またやって欲しい」という声がたくさんありましたので、青森商工会議所青年部の皆さんが再度立ち上がってくれ、秋に2回実施されました。追加されたのは、市役所本庁舎1階サードプレイスを会場に10月4日から10月29日までの土日・祝日を除き毎日開催された「帰ってきた！ランチテイクアウト」と、青森市役所駅前庁舎（アウガ）1階駅前スクエアを会場に11月15日から11月19日まで開催された「青森飲食店お弁当市」の2つです。

今回、皆さんにも利用していただいたテイクアウトマーケットの開催場所や開催期間の拡大に関するご意見は、主催者である青森商工会議所青年部の皆さんと相談して

いくとともに、市としても引き続き公共空間を活用した「まちの魅力向上」につながる取組を進めていく予定のため、その際はぜひ子ども会議委員の皆さんに Instagram を使って取材していただきたいと思います。

(総務部 館山部長)

③の質問についてお答えします。これまでに開催されたテイクアウトマーケットでは、それぞれのお店が工夫を凝らした多彩なお弁当のほかにも、フルーツサンドやわらび餅といったスイーツを販売したお店もあったと聞いています。

しかし、皆さんも学校などで教えてもらったと思いますが、飲食する場面での感染リスクがあるため、販売する商品は、持ち帰って食べてもらえるテイクアウト商品に限定されているところです。

今回、皆さんからご提案があったテイクアウトマーケットの販売品目にスイーツやドリンクを加え、対象事業者を増やしたらどうかというご意見は、利用する側から見れば、食事と一緒にスイーツやドリンクも一緒に購入できるようになり利便性が向上しますし、販売する側から見れば売上げの向上につながるのではないかと思います。

ご利用いただいた皆さんの意見は、主催者である青森商工会議所青年部の皆さんや出店した事業者の皆さんに伝えるとともに、市役所本庁舎をはじめとする公共空間を利活用する取り組みを進める際にも参考とさせていただきます。



(経済部 横内理事)

④の質問についてお答えします。「青森市観光ナビ」というアプリは、誰でも簡単にダウンロードすることができ、アプリの「施設情報」から、「ねぶたの家 ワ・ラッセ」や「八甲田ロープウェイ」など各施設の営業時間や料金といった情報を見ることができ、ほか、「ルート検索」機能を使うと、現在地から目的地までバスや電車を使った行き方や料金などを調べることができ、青森市をよく知らない方でも簡単にいきたい場所に行けるようになっています。



スマートフォンやタブレットで見ることのできるアプリや電子データのパンフレットはとても便利なことに加え、直接人と接することがないため、新型コロナウイルス感染症の対策にもなることから、多くの皆さんに利用してもらえるよう、今後、新青森駅の観光案内所や「ねぶたの家 ワ・ラッセ」のほか、「縄文の学び舎・小牧野館」、「三内丸山遺跡 縄文時遊館」等へチラシを設置するなど、さらなる普及を目指していきます。

(経済部 百田部長)

①の質問についてお答えします。主な取組として、1つには多くの事業者の皆さんが広く感染拡大の影響を受けているため、飲食業だけではなく、飲食店に材料を販売している卸売業や、食料品や衣料品を販売している小売業など19の業種に対して、お店を続けていくために必要な家賃のほか、空気清浄機やアクリル板の設置、フェイスシールドの購入など、感染防止対策に必要な費用を支援する「事業継続支援緊急対策事業」を実施しました。



2つには、ホテルや旅館などを運営する事業者の皆さんへの支援として、国内外から観光客を呼び込むために市と一緒に活動してきた団体に加入している37施設を対象に、一施設当たり300万円を上限に、建物の面積に応じて支援を行う「宿泊施設支援緊急対策事業」を実施しました。

3つには、市民の生活を応援し、消費活動の活発化に繋がるよう1万円で1万3千円分の商品券が購入できる「青森市プレミアム付商品券」を約28万人の市民全員に行き渡るように発行しました。

このように、新型コロナウイルスの影響がある中であっても、市・事業者・市民の皆さんが丸となって、マスク着用や消毒などの基本的な感染防止対策を徹底しながら普段どおりの生活ができるよう、市としても事業者の皆さんにより効果的な支援に努めていきたいと考えています。

回答を受けての感想（子ども会議委員）



Instagramの活動は、素直な感想をそのまま投稿するように心がけたので、投稿を見た人が私たちにより近い感覚でその場所に行ってみたいと思えるような投稿ができたと思います。

また、テイクアウトマーケットは1回分しか紹介できなかったのも、もしまた開催するときにはもっとInstagramで発信したいと思いました。

「青森市観光ナビ」アプリは、私たち以外にも知らない方々がいると思うので、青森市だけでなく県外の方々にも発信して、「このアプリを使用したことでスムーズに観光ができた。また青森市に来たい！」と思ってもらえるようにしたいです。

②「奈良市とのオンライン交流会を通じて気づいたことについて」グループ

〈活動をはじめたきっかけ〉

今年度の活動について話し合ったところ、何人かの委員から「他都市と交流したい」

という声があがりました。新型コロナの流行により、オンラインが普通になった今だからこそ、オンラインを利用して他都市の子どもたちと気軽に交流することができました。

〈これまでの活動内容〉

○8月21日奈良市子ども会議とオンライン交流会

初めてのオンライン交流会となった、奈良市子ども会議との交流会では、「みんなどうしてる？with コロナの過ごし方」と「お互いの市の魅力」の2つをテーマに意見交換しました。

1つ目のテーマ「みんなどうしてる？with コロナの過ごし方」では、奈良市の子どもたちから、おうち時間を楽しく過ごすために「筋トレや音楽に合わせて身体を動かす」、「料理をつくる」、「リモートで家族や友人とつながる」、「ペットとのふれあいの時間を増やす」などいろいろな方法で楽しんでいることを教えてもらいました。

こうしたオンラインを通じた交流を行うことにより、住む地域の違ういろいろな人の意見を聞きながら、コロナ禍であっても毎日楽しく過ごしていきたいと思えます。

2つ目のテーマ「お互いの市の魅力」では、お互いの市の魅力や良さについて紹介し合いました。お互いに知らなかった魅力を伝え合ったことで、それぞれの市が持っている特徴や良さなどを再認識することができ、とても良い機会になりました。

また、奈良市の子どもたちが青森市について特に興味を持ったのは「雪」や「冬の寒さ」についてでした。奈良市では雪がほとんど降らないため、青森市に住むわたしたちが当たり前だと思っていたことが、奈良市の子どもたちには当たり前ではなかったということを知った瞬間です。

このオンライン交流会を通して、私たち子ども会議委員は、自分たちが他の地域からどのように見られているかを知り、「自分たちの当たり前」は、実は「当たり前」なのではなく、それがイコール「青森市の魅力」であることに気づくことができました。

○11月6日子どもの権利条約フォーラム2021 in かわさき

「子どもの権利条約フォーラム2021 in かわさき」にはオンラインで参加し、北は青森から南は沖縄まで、全国の12団体と活動紹介や意見交換などの交流をすることができました。

大阪府や川崎市の子ども会議では、「なんでやねんすごろく」や「こども横丁」など、それぞれの地域に合わせた活動をしていて、とても面白かったです。他の市の活動内容で良いところはどんどんまねをして、より良い子ども会議の活動を目指したいと思いました。

また、子どもの権利の普及啓発のために川崎市がこれまで取り組んできた20年間の活動を聞き、「子どもの権利とは何か」、「子どもの権利を広めるためにはどうしたら良いか」などについて改めて考えるきっかけになりました。私たちは、10月24日に「子どもの権利に関する講座」をInstagramでライブ配信しました。今後、この講座を受けて考えた意見や感想などについてもInstagramに投稿し、少しでも多くの人に「子どもの権利」について考えてもらえるように活動したいと思います。

以上の活動を踏まえ、私たち子ども会議委員から3点の質問・提案があります。

- ① 市では、市外の人に青森市の魅力を発信するために、どのような取組を行っているのか教えてください。
- ② 新型コロナ流行後、市が観光PRの情報発信をする上で気をつけていることがあったら教えてください。
- ③ 子ども目線で青森市の魅力を発信するため、青森市公式Instagramに、子ども会議がInstagramに投稿した内容も一緒に掲載するなど、子ども会議の活動を積極的に発信してはどうでしょうか。



市からの回答

(小野寺市長)

①の質問についてお答えします。青森市に観光に来てくれるお客様にリンゴやカシスなど青森市の魅力的な産品を発信するために青森市はいろいろな取組をしています。私自身が一番大事だと思いを入れているのは、トップセールスです。トップセールスとは、私(市長)自身が先頭に立って青森市の魅力や青森産品をPRし、ぜひ青森市に観光に来てくださいという活動することです。やはり青森市のリーダーが発信をすることで、「青森市の人たちは心から歓迎しているよ」、「青森市はこんな魅力があるよ」ということを一番に伝えることができます。このトップセールスという仕組みはたくさんの街でも取り組んでいますが、とりわけ青森市でも力を入れています。



例えば、来週11月28日には、東京都板橋区の「イオンスタイル板橋店」にお邪魔して、三村申吾知事と一緒に青森のリンゴやカシスそれからホタテなどの海産物に加えて青森県全体のPRを毎年させていただいています。12月4日には愛知県名古屋市で直接、また三村知事と一緒にPRします。来年1月になると、沖縄県南風原(はえばる)町の「イオン南風原店」でPRをしたり、沖縄のテレビ局や新聞社さんなどを直

接訪れて青森の魅力を沖縄の皆さんに伝えたりする活動を長く続けています。ずっと続けることで、沖縄の人にも青森ファンという方や毎年待っているよという方がたくさんいらっしゃるので、「お店に今年も来てくれてありがとう」という声を頂いたりします。

このほか青森空港に直接つながっている名古屋空港、大阪空港、神戸空港などの飛行機の便を活かしてぜひ青森に直接きてくださいとPRしています。新型コロナウイルス感染症の影響で今は海外に行けませんが、コロナ前は台湾・中国や韓国にも直行便がありました。新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着いたらこうした海外のお客様もまた青森市に来ていただけるようにトップセールスに努めていきたいと思えます。

全国の人、世界中の人に青森市ファンをたくさん作っていきたく思っています。皆さんたちの活動が多く青森市ファン獲得につながるよう期待しています。

(経済部 横内理事)

②の質問についてお答えします。青森市内の観光施設や宿泊施設では、利用される皆さんの安全・安心を確保するため、「三つの密の回避」や「人と人との距離の確保」などの感染防止対策を行っており、これらの感染対策については、青森市や各施設のホームページ、それぞれの観光施設内にポスターを掲示するなどして、利用される方に安心して楽しめる施設であるということをお知らせしています。



また、国では観光する方に対して、マスクの着用や手洗い・消毒、間隔を空けるなど、旅行する際に感染防止対策として気をつけるべき内容を「新しい旅のエチケット」としてまとめ、これを守っていただくようお願いしています。

市でも観光客へ青森市のPRをするときには、「新しい旅のエチケット」に関するお知らせを忘れずにお伝えしています。

このように、青森市の観光施設や宿泊施設等では感染症対策を徹底し、利用者に安全・安心を提供しておりますので、子ども会議の皆さんも市外のお友達や知り合いの皆さんに「新しい旅のエチケット」に気をつけていただきながら、安心して来ていただくよう、青森のPRをお願いします。

(福祉部 福井部長)

③の質問についてお答えします。皆さんが投稿してくれた子ども会議のInstagramには、青森市で行われたイベントや観光地の情報、身近にある素敵な場所など、子どもならではの視点から撮影された魅力あふれる投稿が見られます。

Instagramでは、皆さんがオンラインで意見交換を行った奈良



市などの市外の方をはじめ、子ども会議の活動を直接見たり、聞いたりした方以外にもその活動を知ってもらうことができるため、特に皆さんのような若い人たちにとって非常に有効な情報発信の方法ですので、今後も継続してもらいたいと思います。

一方、市では、令和2年4月1日から青森市公式 Instagram アカウントを開設しており、何気ない日常や自然等の写真や動画を投稿し、本市の魅力を随時発信しています。

また、青森市公式 Instagram アカウントをフォローしていただいている方が見つけた市内のおすすめスポットや素敵なお景色、日常の一コマ等に、「#あおもり日和」または「#aomori_days」をつけて投稿していただくと、その投稿の一部を、当アカウントで紹介していますので、子ども会議のアカウントで投稿するときに、そのようなハッシュタグをつけて投稿していただくことで、青森市公式 Instagram で紹介していきたいと考えています。

子ども会議の活動は、皆さんが育った青森市を今以上に好きになってもらい、青森市のファンを増やすことにつながっていると思いますので、引き続き、皆さんと一緒に、青森市の魅力を発信するとともに、活動内容の効果的な発信方法を考えていきたいと思っています。

回答を受けての感想（子ども会議委員）

他都市の子どもたちと交流したことで、いろいろな考え方のほか、他都市の活動や魅力について詳しく知ることができました。また、先ほど答弁していただいた新型コロナウイルス流行後に観光施設で行っている対策など、青森市に住んでいる私たちでも知らなかった取組を知ることができました。



今日のフォーラムで新しく学んだことを活かし活動をたくさん頑張っていきます。本日は私たちの声を聞いてくださりありがとうございました。

市長総括

子ども会議の皆さん、発表ありがとうございました。そして、青森市の街づくりのためにとっても大事な提案をたくさんいただきました。次回の開催では、皆さんの提案を踏まえてさらに一歩進みましたよ、とご紹介できるように我々一同頑張りたいと思います。

2つのグループに共通したことで1点感想を述べさせてください。2つのグループどちらも新型コロナウイルス発生前にはこのような発表になるとは予想だにしない発表だったと思います。青森市は新型コロナウイルスが発生して直ち



に、皆さんの学校での学びを守るために遠隔授業としてオンラインで授業を受けられる体制を整えました。新型コロナウイルス感染症対策は大変なことです、それでも皆さんの教育の水準が特にICT情報機器を使って大きく進歩したことはひとつの証でもあります。今日の発表を聞いて、改めてそう感じました。我々やお父様お母様よりもパソコンやオンライン、スマートフォンを使って普通に仕事や学習ができる皆さんの強みを生かし、これからも学校でもお互いの子ども会議の活動でもICT情報機器を使いこなして、青森の魅力PRや自分を高めてほしいと思います。

本日は皆さん、ご参加誠にありがとうございました。

以上で子ども会議フォーラム2021が無事終了しました。ハプニングにも落ち着いて対応でき大成功で終えることができました。

